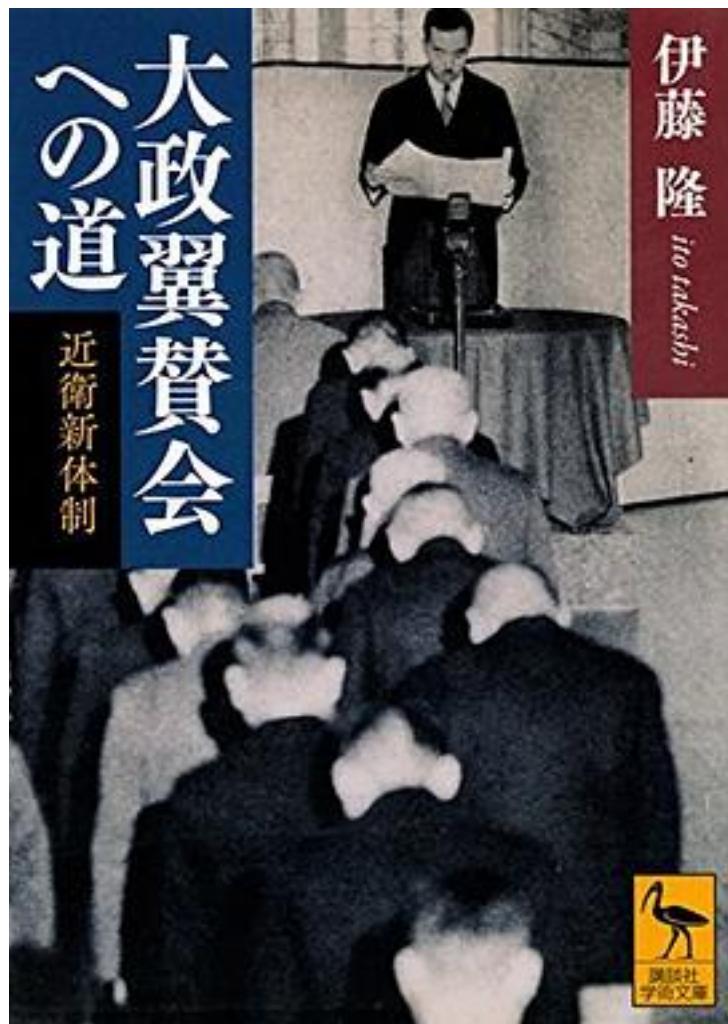


大政翼賛会への道



[大政翼賛会への道 下载链接1](#)

著者:伊藤隆

出版者:講談社

出版时间:2015-12-11

装帧:文庫

isbn:9784062923408

ヨーロッパでの戦線が拡大し、開戦前夜の様相を帶びてきた昭和15年(1940年)、帝国

憲法の改正やその弾力的な運用を含む政治・経済・社会体制の変革を目指す新体制運動が、左右の「革新派」を中心に巻き起こる。この無血革命ともいえる運動の中心は、その革新性と天皇に近い高貴な出自によって近衛文麿とされた。かつて次女・温子の結婚前日に自宅で催された仮装パーティーの際ヒトラーの仮装をしたという近衛は、自身の強者へのあこがれもあって、これを積極的に受け入れた。そして第二次近衛内閣成立後、近衛は内大臣を通じて意見書を天皇に提出。そこには、国防国家体制の必要から権力分立を謳った憲法の改正や時代の進運に応じた運用を訴え、執行権力の集中、および東亜新秩序追求の世界史的意義と統制経済の確立が強調されていた。近衛を担いだ新体制論者の多くは、打倒すべきは財閥を中心にして、その政治的代弁者である既成政党であり、彼らの輩下にある旧官僚であり、新しい状況を認識しない軍官僚=軍閥であり、天皇をとりまく宮廷官僚である、という共通認識をもっていた。すべての国家機構が一つの党の指導下におかれ、その最高指導者は天皇に対する唯一の輔弼者となるという構想のもとに展開した運動は、大政翼賛会を発足させる。その一部始終から、開戦に突入していく日本の政界、財界、官界から軍部、労働運動指導者など各層の思惑と行動を分析する名著。

作者紹介:

伊藤 隆(いとう・たかし)

1932年、東京都生まれ。東京大学文学部国史科卒。東京大学文学部教授、埼玉大学大学院教授、政策研究大学院大学教授を経て東京大学名誉教授。『岸信介の回想』(共著、文藝春秋)など近代史史料やオーラルヒストリーを編纂・刊行。主な著書に『昭和初期政治史研究』(東京大学出版会)、『日本の近代16』、『日本之内と外』(中央公論新社、後に中公文庫)、『歴史と私』(中公新書)などがある。

目録: 序章 新体制の成立

- 第一部 近衛新党運動、<昭和13年>
- 1章 さまざま 「復古-革新」 派
- 2章 軍部の中の動き
- 3章 社会大衆党の 「復古-革新」 派化
- 4章 実現しなかった近衛新党計画
- 第二部 近衛新体制運動の展開<昭和15年>
- 5章 近衛新党に対するさまざまな期待
- 6章 動き出した新体制運動
- 7章 大政翼賛会の発足
- 8章 大政翼賛運動の落日
- 終章 新体制運動とは何であったのか
- あとがき
- 追記
- 参考文献
- 関連年表
- ・・・・・ (收起)

[大政翼賛会への道 下载链接1](#)

标签

日本史

日本

日本政治

政治史

感兴趣

历史

一般教养

CaseZ

评论

能够一窥伊藤史学的大略的好著。主要是说包含了左右翼各色人等（特别是旧左翼分子）的“革新”派企图建立一国一党体制，遇到体制派的激烈抵抗，结果近卫公惣了的故事。伊藤虽然不信共产国际阴谋论，但言外之意战时体制都是些持赤色思想的人在推动，右翼反而有很多批判新体制的人。而参与战时体制的人战后却又回到了革命队伍中成了好东西。可谓旨趣深远。

[大政翼賛会への道 下载链接1](#)

书评

[大政翼賛会への道 下载链接1](#)